

深い絶望を、命の未来に繋げていこう。混迷に踏み込んだまま、  
衝がゆい失望感を抱え込んでいる今こそ、この作品を見て下さい。  
日本でも出来ることはあるはず！日本でも何か動き出しているはず！  
どんな時も明日に向かう命の力を、見失わないために。

——加藤登紀子(歌手)

地球環境を語り、自然エネルギーを語る映画も増えた。  
しかし、「Morgen、明日」はそのどれとも異なる。  
プロパガンダ映画でもなく、観る者に現実を突きつけ答えを迫る映画でもない。  
映画から滲み出てくる坂田雅子監督の生き方に魅了されてしまった。

——木村結(原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟事務局長)

# Morgen モルゲン、明日

www.masakosakata.com

企画・監督・撮影：坂田雅子 編集・構成：大重祐二 整音：小川 武 配給・宣伝：リガード

問われているのは、私たちの現在。  
Morgen, 明日は私たち一人一人が作るのだ。

福島第一原発の事故から3ヶ月後の2011年6月、ドイツは2022年までにすべての  
原発を廃炉にすることを決めた。一方、当事国の日本では事故収束の糸口も見え  
ないまま再稼働が始まり、原発輸出の話さえ出ている。両国の違いはどこからくるの  
だろう。答えを求めて「私」はドイツに向かった。

そこで出会ったのは、都市で、村で、学校で、教会で脱原発と自然エネルギーへ情  
熱を燃やし、実践する多くの人々。第二次世界大戦での自国の行いを深く反省し、  
1968年の学生運動をきっかけに芽生えた反原発・環境保護の意識と情熱を政治  
に反映し、次世代につなげようとしている彼らの姿は、世界は市民の手で変えられる  
と教えてくれる。

初監督作品「花はどこへいった」以降、大国の犠牲となった人々を描き続けてきた  
坂田雅子監督が、権威を盲信せず、自分で考え、自ずから行動を起こし続けるドイ  
ツ市民の戦後の軌跡を辿る旅。

※Morgen(モルゲン)＝「明日」を意味するドイツ語



どういものにも知恵を使い、ど  
ういものにお金を使うか。僕  
はベンチャー台買よりもソフ  
トウェアにお金をかけた。い  
い気分良く眠れるからね。



政治に関与しないことが間違  
いだと気づくのに何年もか  
かった。自分で考えて行動し、  
世界への責任を持つまでは  
さらに時間が経った。



68年の学生運動は文化の交  
差を引き起こした。学生たちは  
古く、現代的な社会の仕組み  
を壊そうとした。



チェルノブイリの事故から自分  
の人生は変わった。電力会社  
は大丈夫だと言うばかり、脱  
原発を実現するには自分たち  
がやるしかないと思った。



身近な行動からグローバルに  
考える。持続可能な社会は足  
元から始めてこそ実現する。



チェルノブイリメモリアルディ 2019 『モルゲン、明日』上映会&監督トーク  
4月21日(日) まつもと市民芸術館小ホール 13:30開演 (開場 13:00 から)

- ◆前売り 1,000円 当日 1,200円 高校生以下無料 (全席自由)
- ◆チケット取り扱い 日本チェルノブイリ連帯基金事務局 (0263-46-4218)  
まつもと市民芸術館チケットカウンター (電話受付不可)
- ◆主催: 日本チェルノブイリ連帯基金 後援: 松本市・松本市教育委員会

お問い合わせ  
日本チェルノブイリ連帯基金  
松本市浅間温泉 2-12-12  
電話 0263-46-4218  
E-mail asama@jcf.ne.jp